

2月

いだ

抱け

かがや

輝け

ひら

拓け



平成28年度 原山中だより 【第10号】 平成29年2月1日発行

幸福はカラダの奥にある。

校長 林 直紀

始業式から鏡開きまで校長室前に達磨を置きました。生徒は各自の目標を達磨に書き込んで目標達成を祈願していました。部活に関することから受験間際の切実なものまで、いろいろな願い事がありました。いくつか紹介します。

「サッカーで全国にでる！！」「学総県大いくぞ！」
「新人戦ゴールド金とってやる！」「自分に負けない年にする。」
「当日まで諦めない！」「テストで良い点が取れますように」
「世界の舞台にもう一度立てますように。」
「絶対合格する！！」「〇〇高校合格！」
「楽しい高校生活を送れますように！」・・・



もっといろいろあるのですが、書ききれません。受験の成功を祈願するものが大半です。なんとか皆さんの願いがかなって幸せな一年にしてほしいというのが私の願いです。ところが様々なお願いごとのなかで簡単そうで難しいのが、「幸せになる」というお願いです。なにせ、「幸せ」というのは心の持ち方ひとつだからです。

人は、何かに集中しているとき、夢中になれるものがあるとき、やりたいことがあるとき、行きたいところあるときなど、先に楽しみがあるとき、なんとなく幸福になれる。みなさんはどうですか？それこそ100人いたら100通りの幸せがあります。

アメリカの哲学者エマーソンが次のようなことを言っています。

「人間の幸福は、決して神や仏が握っているものではない。自分自身の中にそれを左右するカギがある。」

このカギというのが自分の気持ち次第ということでしょう。そして、そのカギを支えるのが、心身共に健康であることだと思います。何をするにも体が資本です。健康だからこそ幸福を享受できるのです。特に2年生は館岩少年自然の教室、3年生は入試があります。寒い冬のこの季節、学校ではインフルエンザや胃腸炎が流行しないように、保健室を中心にできる限りの指導をしています。しかし、健康を維持するには、学校だけでは無理です。ぜひ、各家庭でも、うがい・手洗いを習慣づけること、睡眠時間をしっかり確保すること、バランスの良い食事をとり病気を防ぐことにご留意ください。

健康であることが一番の幸せです。健康はお金では買えない、なによりの宝です。なにせ、他に頼るものがなければ、カラダを張るしかありませんから。